2 Ia-11

# 日本におけるスパンコールの変遷について—スパンコールの製造・流通を含めて—

○徳山孝子
(岐阜女大)

目的　昨年、スパンコールの付いた衣類や小物が流行した。舶来物の一つとしてのスパンコールは、日本においてどのような変遷を辿っているのであろうか。これまでの研究では、日本におけるスパンコールの報文がほとんどなく、辞書や事典に記載されている程度である。辞書や事典では、世界西洋史のなかにスパンコールが述べられ、日本のスパンコールに関する記述が少ない。そこで、日本におけるスパンコールの変遷をたどるとともにスパンコールの製造・流通について調査した。

方法　日本におけるスパンコールの製造・流通を明らかにするため聞き書き調査を行い、聞き書き調査からスパンコールの変遷をまとめた。

結果　現在スパンコールを製造する業者は、(株) ツジオシークエンス一件であった。聞き取り調査から日本のスパンコールの変遷は、(株) ツジオシークエンスの歩みと同じであった。スパンコールの素材はフィルムであり、京都の金糸製造業者がスパンコールの原料となるフィルムを製造していた。日本のスパンコールのベースフィルムは、アセチロイドからはじまり現在は、塩化ビニルとポリエステルであった。スパンコールは、フィルムから打ち抜き平、亀甲、花や葉などの形になる。(株) ツジオシークエンスは、スパンコールの輸出を主としており世界約３３カ国に輸出している。日本では、ビーズ会社に販売していた。